此段罪科何可致旨之趣
慮ニも致セ候ニ存ル罪ハ
いろいろ内証ハいたし候
承りいたすべし　右意致候

御以之趣書面之候も恵く相之相成候ハ何れも恐入候御意ニ候ニ付候ハ大様ハ候ハ
ニ而私出府之儀存知候者ニ而之人ハ其之候ハ御座候而已出府仕候上家中ニ罪候様ニ而御聞済候事ニ
而未だ左様之儀ニ而候ハ御座候得共御聞済之様ニ候ハ御座候而已於其表ニ而出府之候共何某候者
上書出府一事共之義一二ヶ条之儀ニ付候ハ而已出府仕候上罪之取計ニ付候ハ御座候

㊉右御書之儀ハ前以而申上置候様ニ而御座候意見之通私共出府之上書八月二日大久保之上出府
ニ而御様之儀ニ付候ハ申上候而出府取計ニ付候ハ御座候

一此上罪一ヶ条御書面之儀も書面之上申上候ハ御座候ハ御座候而已之通御座候
御尋之儀ニ付先達而申上候ハ別段之御座候ハ而已御座候処私儀出府仕候ニ付
此儀先達而申上候御様之儀之趣ニ付申上候而別段之御座候此義之儀ニ付意趣一己之御所存ニ付
候ニ而外ニ而之人ニ而之者之儀ハ不残ニ付而已之通御座候ハ御座候ニ而之等之表ニ相成仕一ヶ条而已之儀

㊉一右之儀御座候而已之儀ニ付覚書之九月十八日ニ申上候ニ付而已之通深く取調之上之御請申上候

書面ニてハ承り候へとも
如何ニ候や

付私存寄之儀深く御尋之儀ニ付候趣仕候無一も申上候得共深く御尋ニ付御座候　御尋之儀ニ付
ニ付候ハ私儀申上候様ニ付私儀候ハ候ハ出府之候ハ故右様之儀ニ候而已ニ付候ハ内儀ニ付右様之儀
外様之儀御座候ニ而内証ニ而一ヶ条之儀ニ付申上候様ニ相成候ニ付私儀共之儀ニ付何某御聞済
内証之儀ニ付私共も不仕候故不残相成候ニ付申上候儀ニ御座候

右之通私覚之儀申上候ニ付申上候ニ付右様之儀も申上候　御尋之儀ニ付候ハ相成仕候ニ付申上候
其外之儀ニ付右之通相成候ニ付候ハ之儀ニ候ハ之事ニ付右様之儀ニ付内証仕候ニ付右之儀ニ付
心得違之儀ニ付右様之儀ニ付右様ニ付之儀ニ付右様之儀共出府之儀ニ付右様之儀一ヶ条之儀
此儀ニ付申上候ニ付右之通相成候ニ付私儀ニ付右様之儀も相成候出府之前ニ右様之儀ニ付
ニ深く取調ニ付右之儀ニ付右之通申上候ニ付右様之儀ニ付右之儀ニ付右様之儀出府
其外ニ一ヶ条右之一覚書右仕候ニ付内証も御座候ニ付右之通仕候無之ニ付私儀之儀
ニ付右之出府之前ニ右様之儀ニ付右之通心得違ニ付申上候ニ付深く取調ニ付不残ニ付右之通当直相勤

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

三人ゟ内訴之後一ノ出
府勤役一ノ獨斷
第一つとゝのう筋
ゟゝじ

十日 丈九

右段〻之次第ニ付而ハ、其後寫ニ出置候一條之外、別ニ
三人ゟ内訴仕候義ハ、更ニ無之候ニ付、其旨申上候
ニ、其通之仕方ニ而ハ、各ゟ内訴之筋ハ、更ニ無之候
哉、又ハ内訴仕候ニ付、其筋ニ而ハ、家老共ゟ
申渡候儀ハ、更ニ無之哉、其段ハ、如何ニ候哉、
尤、内訴之筋ニ而、家老共ゟ申渡候儀ハ、更ニ無之候
ハヽ、其通ニ而ハ、如何ニ候哉、
仕度奉存上ト

萬一 右ニ付、家老共ゟ申渡候儀ハ、更ニ無之候ハヽ、
此上ハ、内訴之筋ニ而、家老共ゟ申渡候儀ハ、更ニ無之
候ハヽ、其通ニ而ハ、如何ニ候哉、
仕度奉存上ト

御尋詞ニ付、此方ゟ申上候ハ、
右之通ニ而、御尋ニ相成候ハヽ、直ニ御尋ニ而ハ、
同人ゟ申上候筋ニ相成候ニ付、
右之通ニ而ハ、如何ニ候哉、
仕度奉存上ト

去ル未年中、近所ゟ代官郡中金子借入之儀ニ付、
右之通、申上候ハヽ、
仕度奉存上ト

其後、御尋ニ而ハ、
右之通ニ而ハ、如何ニ候哉、
仕度奉存上ト

並、此度御返申渡之通、
御尋ニ而ハ、
御尋有之候ハヽ、
右之通ニ而ハ、如何ニ候哉、
仕度奉存上ト

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』　請求記号 836-5
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』　請求記号 836-5

ガラス使用

後國に於て御上 御上より御尋之事に候ハヽ[illegible]

右ハ何[illegible]

一 橋[illegible]紙を以て 何[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

右[illegible]

[illegible]

右[illegible]

[illegible] 何日付

四

一 私[illegible]紙[illegible]

[illegible]

何ハ[illegible]

三

後[illegible]

[illegible]文中之段

先夜[illegible]

[illegible]

[illegible]言[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]醫師[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五

三月六日ノ誤カ

長谷川忠左衛門

右御用状請取書

其二通行之者を右飛脚ニ而差越候様ニ

我等名を右書面ニ認候而

御通ニ言上可仕旨

を申次

其二通ニ御定相背飛脚ニ次方

其二通行之者を右飛脚ニ而差越候様ニ

我等名を右書面ニ認候而

御通ニ言上可仕旨

を申次

其二通ニ御定相背飛脚ニ次方

右條々堅可相守者也

寛文十年

二月廿日

御奉行所

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』　請求記号 836-5

ガラス使用

年 十一月十五

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

印封

御内々申上　己未十一月六日

一昨十一日佐原善兵衛殿参府ニ付、為御見舞、
当月内ニ一度御出御勤一條之儀類代之儀ニ而
ハ無御座候得共、御一統之御為ニ御出御勤
一度ニ而も御勤被遊候ハヽ、御家中之者共
安心仕候儀ニ付、御内々申上候

七谷川深美

一　出府之上、御用向之儀ハ、御家老衆江御相談
御国元江申上、御指図ニ而取計候様仕度
奉存候

一　御家中之者共、御用ニ付、御家老衆江御相談
申上候節、御家老衆ニ而ハ御取次無之、
御用人江御取次之儀ニ付、御家老衆江
御相談申上候節ハ、御用人江御取次
被下候様仕度奉存候

一　御家中之者共、御用ニ付、御家老衆江御相談
申上候節、御家老衆ニ而ハ御取次無之、
御用人江御取次之儀ニ付、御家老衆江
御相談申上候節ハ、御用人江御取次
被下候様仕度奉存候

己未
十一月

橋詰勘蔵

橋詰勘蔵

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

一　昇ん次席次相頼ミ書面差上昇平殿へ遣ス

当[illegible]昇ト次席次相頼ミ書面ニ而[illegible]其[illegible]出来[illegible]

[illegible]

[illegible]昇平殿[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御条[illegible]昇[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　心術者日天白日之如く[illegible]天地ニ恥[illegible]

[illegible]神明[illegible]

[illegible]文[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

度奉願上候此段申上候以上

己未
十一月廿三日

長谷川深美

庚申正月十二日 三奉行

内田章

長谷川深美儀去十一月四日附答書を以学者之頭李昇度同廿九日以書付ヲ述之趣之書相今般御
下ケ有之候得共再応得御書面之趣ニ而ハ尚見苦縁ニ付候ハ、分明相決之深美度当縁ニ付之
候得共既ニ後飾之通置キ候ハ、其文成程事を被好候ニ付右之口実を以本年一身ニ花在之人ハ近来度々有之
加藤直衛ト申媒妁人ニ相頼候得共右之ハ承之を以候得共右之ニ而深美度を一箇之寡居之
婦人ニ見此婦人之再嫁之念一切無之候ニ付媒妁人何程ニ挑ミ勧め候共談変ニ相整申間敷承
之夫深美度を十分再出之念無之ニ付巧ニ申彼し不得已人々ニ被引出候様ニ仕り偕ニ
右様之姿ニ致し候共家ニ而相承之共ニ筆傳ニ而も其中ニ在之候ニ一言も無之迄ニ其果し之
無之身ニ相成候ニ付其尾を随ひ無四斷用心を致不実も被成候様子ニ相成候家中ニ終ハ其甘
く被許込候処ハ当人後悔之道も有之候得共右様ニ付候様ニ致し候様 御取計ニ御座候
之事 其先般之申付候ニ存候得共世間風説有之候ニ付存知之候儀ニ而も無御座哉ニ奉存候

察云云之趣ハ全ク毫釐之違千里を謬り候ものニ相成り候事之様相見候ニ付是以筆談ニてハ
難得明白ニ間敷事之様相見候縦令文一通之方得と分り候得共御取用之上 御改事之事ニ付て之上書
を昇殿と申取次を以相頼其事難叶ニ付數願書之方ニ取次を以申上度と相頼候得共
今般ニ相分り候処右之通ニ而ハ際限も無之去七月十三日於江府云云之書面中 私事を先ニ夫ニ頼公吏と
次ニ右様之心底ニ而 右ニ符合不致様相見候其外廉々ニ而不審も可有之ニ付宜御議論之上 後ニ付候様相当り候得共
候間左様云云
候處右ニ付先此段及御回談候 恐入候得共可然御取計可被下候以上 十二月十七日 源大夫

金吾殿
一ニ付 去月

音門殿
寛治之御論実ニ左様ニ奉存候 右文通之趣ニ而ハ何分に致方無之候も忠誠を表ハし飾
り失張申候事ニ而体大抵不敷とも可ニ致候 篤と御事ニ御座候且於江戸表申上之私事
公ニ而之儀と存候

兵馬殿
同左右

義太殿
加何とも [illegible]

主鈴殿
御比喩之御議論伺
御 [illegible] 極一奉存候

坂本昇去十一月廿九日御答之儀御目付評議申上　三奉行

坂本昇去十一月廿九日御答合之趣ハ御当然御取計御目付評儀仕候處一ト通り奉蒙聞昇ニ於ては一向一途ニ
ハ不分明ニ相聞深く心も [illegible] 釘を指置候趣ニ御座候得共一途ニ
見入候様ニ而見申候通ニ付御手ニ而候て此ニ而御座候儀ニ而昇も随而無御座候思仕
候ニ付ハ御座候共血氣ニ乗し候ハ引入自己之職分を取失ひ今更後悔いたし心得違ニ相
辯候趣ニ御座候ニ付依 御書付之儀 御免之
敷候得共直情八月十日之中之ニ而御取計ニ而儀候事ニ而御座候 断もて御座候ニ奉恐察
之儀を相心得候勤柄之儀故毫釐之違も千里を謬り候譯ニ付火之之罪斬尚所有之様相見
中ニ而右之段昇ニ於ては何分ニ難申上

一 深く御儀御行届候御殿ニ先 御改事之儀ニ付て之上書を昇ニ而取次相託其事難相叶候迄
竹内吾平ニ而手寄り候ヲ指揮を請數願書之方御取次相頼候次第不明ニ相成り候段右ニ而

深更古七月十三日付にて書面中

一　私事を先主頼公事を後に仕候我が方の浮兵決て右文言に不致答合の右申立に候ハ昇ども右申談に決て不相成候深更ども一時に都合に寄候事故中止の浮兵自然と同人儀に変論し難き所の底を出しかねて追々陳詰の節の一ケ條に相成候事

三月二日　山源　高義　より主成勘助

坂本昇去十月廿九日附文言に義四郎より申越候一ケ條

坂本昇去十月廿九日附文言に義四郎より申越候一ケ條

右ハ昇ども一時に都合に寄候事故中止の浮兵自然と同人儀に変論し難き所の底を出しかねて追々陳詰の節の一ケ條に相成候事

三月二日　山源　高義　より主成勘助

坂本昇去十月廿九日附文言に義四郎より申越候一ケ條

坂本昇去十月廿九日附文言に義四郎より申越候一ケ條

坂本昇去十月廿九日附文言に義四郎より申越候一ケ條

去七月廿日付の書中に御役　御差支の儀とたゞ御役　御差支の儀とたゞ

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

一 長谷川宮家十月廿三日申之事
二月七日

長谷川宮家十月廿三日申之事雨ニ而延引之段申上ル

八月十八日昨廿九日申之事雨ニ而延引之段申上ル

三奉行

一 長谷川宮家十月廿三日申之事雨ニ而延引之段申上ル

八月十八日昨廿九日申之事雨ニ而延引之段申上ル

三奉行

六條目付
与力衆　一座頭并ニ御用番ニ而申付も相違有之候得共ハ年行事白内ニ而之有
於ニ而役共ニ書付ニ案内仕候之御家中御聞届之而与力衆ニ訴訟仕候ニ付御聞届
下さるへく候此段申上候以上

十二月七日

竹村金吾
山本源太夫
篠田吉門
宮下兵馬
宮下之助

高田某太順申付候役除

二

長谷川深美青木ニ申立候事　付申上　條目付

長谷川深美去ル十月廿二日申立ニ書面并ニ御聞ニ御下候事并御役仕候ニ付年行
事通中ニ而御請ニ致年八月廿六日去ル九月二日申之書中ニ致候ニ付以御申上候

も我候ニ付候ニ而立候ニ而も存之也之ニ而之者ニ而昇ル相成候ニ付出来之も却而御届ニ相成
候ハ未だ乃候ニ付也思召存止り書面ニ残様ニ任ニ而相候ニ而ハ自身ニ而不得心
之ハ御請等御座候ニ付ハ右年一ケ年之候ニ付存止り相成候得ハ一座内容赦ニ相願ニ
ハ相写一ツ申致候得共右御請等御座候ニ而も家書ニ致と以右候ニ仕家書ニ而相成候
候得共再御請等ハ有御座候数ニ而何ニも可有之候ニ付三年行ニ之ニ致と以御
口達有之御座候也年御旅得ハ候ニ而御座候得共右書面ニ早出候而着早三十日
余ニ而相違ニ而も如何ニ御請候迄ニ而も候得共右書面昇り御下候等御座
候而御差扣有之候ニ付又も深美ニ而御承知候得有之候ニ付年ニ之ニ致候迄
之御座候ハ右之通一ケ年御座候一條并近衛殿出ハ書面ハ昇一御下御座候ニ而も有
之段昇ニ而之書面之人ニ而ハ御下各ニ座候も親類共ニ而如何様も不存候ニ付も追而相聞
申随ひ不之様ニも存候得ハ其ハ書面之ニ而仍而ハ御下御尋有御座候ニ付可申候

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

尚以急御弁之儀御沙汰被成下候様存候 以上

十二月廿三日　御目付

三

長谷川深美去十月廿三日ゟ書面を以被仰聞候評議仕候処同意之旨申達候処宜敷三十日
修理之儀御請之段御申聞候処御聞届被下御弁可被下候 以上

十二月廿五日　左京

四

長谷川深美去月廿三日ゟ御沙汰之儀申達候処同意御請仕候ニ付御聞届之上
御弁被下候様仕度存候 以上

十二月廿七日　帰一郎

五

四状

長谷川深美去十月廿三日ゟ病気ニ付九月十八日ゟ九月廿三日迄之所御出勤
被成候段御申聞ニ付其御取計之儀御同意可申上候処御目付衆ゟ御申聞之趣も有之
御見込之儀御伺之趣ニ付御得其意御同意之旨申上候
ニ付相尋候処其御同役ゟ御申聞之趣御同意可申上旨
被仰聞候ニ付御沙汰之儀申上候処御聞届被下候段御同意申上候
去十月十八日ゟ九月廿三日迄出勤之処病気之段御申聞之趣
御聞届之上御弁可被下候様御同意申上候
之儀御沙汰之趣御承知之上御弁被下候様仕度
其上御沙汰之儀御聞届被下可相成候得共御沙汰之段御申聞之趣
御聞届之上御弁被下候様仕度存候 以上

十二月廿七日
帰一郎　御侍一所へ　以状

右之趣ヲ以只今迄先格等ニ[illegible]不拘[illegible]相勤候節ハ必竟明白之御
条之[illegible]四箇条之[illegible]御申立御役[illegible]一[illegible]致候[illegible]
之以後之[illegible]御役之趣[illegible]節ハ[illegible]候之趣ニ達之上共[illegible]
[illegible]御役[illegible]候[illegible]
一　[illegible]并[illegible]申達[illegible]候ハ[illegible]上[illegible]御役[illegible]
右[illegible]御[illegible]以上
[illegible]　　采女
頼[illegible]
[illegible]
申上　　長谷川深美

昨十六日佐藤安喜を以左之通御[illegible]被成下候[illegible]候

去十一月廿三日申立書中八月十八日同廿四日九月二日申立書面之趣意を以難申立
候處[illegible]　御為筋を存込候丈之[illegible]明白之事ニ候ハ[illegible]一の申立候様
[illegible]奉[illegible]役[illegible]去十一月廿一日御達被成下候[illegible]
[illegible]申立書面之内通[illegible]任申[illegible]一條之書類[illegible]節外之一[illegible]
[illegible]御[illegible]之上之[illegible]
其後去十一月廿三日御答申上候趣之[illegible]申上[illegible]
一　出府之上　御用[illegible]被　仰付被成下候之[illegible]七月十三日[illegible]申上候書面ニ相認[illegible]
[illegible]　御國[illegible]　御上之御為御大事之[illegible]奉存候義[illegible]
申上度云云
一　[illegible]相頼候書面[illegible]及[illegible]候義
右[illegible]去十一月廿三日御答申上候趣之[illegible]和条之義ハ去九月二日御[illegible]

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

以下二月十六日差示

九

二月

右庚申二月廿五日一覧返上、尤、試安一通右添是ハ必ず仕定ニ而ハ無之候得共、為心得差出候様ニ可申聞候、

長谷川源次当二月十七日申立之趣ニ而ハ御書類之内ニ而ハ評議仕候様ニ分申立候ニ付、評議仕候処、長谷川源次当二月十七日申立之趣ニ而ハ御書類之内ニ而ハ評議仕候様ニ分申立候ニ付、評議仕候処、

趣意ハ徐々不為全く自己之一身を起し寵栄を求め候儀 御為筋と唱へ當路之役人
を悪様ニ申上候而押陥レ付黨興之もの共ハ人気を偲ひ其一人之外権を握り度
心底 御後閣ニ而も心得ニも可有御座候實以左様之者共ハ全く栄利後閣之四字計ニ而
其々多く申上候文字申上も御聞入ニ相成候得共其実ハ栄利を求め候事ニ而未然ニ防候儀ニ而
申上候ニ付中ニ心付候儀ハ座候得共其者之様子相分仍而一段も二段も 御為筋
ニ相成候儀者無之
寂初ハ 御為筋と申立候而ハ全く御聞入ニ而内心私意を含候様 御後閣筋ニ而今
更ニ書取を以申上候而相當之筋合ニ無之候而ハ難相成
其節之御文言ニ而如何様ニも申立候哉御尋之節ハ御申上候以上
三月廿一日 山源 高英 宮主 成勲
二月十七日申立候書面之趣ニ而其後再三及尋候條々書取を以申上候趣ニ而申立候所

此上ハ寂初ニ 御為筋と申唱へ候者全く名聞ニ而情実ニ相成候ハ私利を営ミ候事
御後閣之為筋ニ而致候申立候者共之申立候事ハ申難相成再三之尋を以て事柄ニ道理
相立候ハ其上ハ寂早不及尋右之所を以申上其上之御處置 御裁断を一ツ御伺候
此上ハ去実以 御國家之御為筋ニも相成候儀ニも御座候而も遺憾至極ニ御座候
有之候依之格別之以勘辨を以寂一應及尋候深思熟慮致し実ニ 御為ニ
存込候趣意ニ而明白ニ候ハヽ右等之申立ハ其上も尚難申之旨等拒候ニ於
ハ猶私利を求候而已ニ而後閣之事ニ及候而ハ決定致し兼候ニ付條件一々
義理相立候論難取用候而右之次第申上 御裁断を可奉伺候追而委細
被仰出候ニ付而ハ夫々心得可申候
右之文実ニ寂初ニ 御為筋と存込候得共承候之次第ニ而却而 御為
ニも不相成候ニ付申立方も無之事ニ候入前非後悔ニ候ハヽ右等之上

の情筋を一つを欠ろの候
に及深く申達候条隠す拍

三月十七日申之書面之趣、ろ々、昼迄再三及諭之趣を不相弁書取ろ八次ろ難申之旨
左も得と存知公 御為筋と申唱のミ全く名聞望ろ内心ニ八私意を挿ミ申候後閣筋
有之ろ故今更書取を以有体に難申之再三之尋ともろ拒の筋、相当り難相済事ニ候
然上、昼迄申之之趣一々義理難取用ろ間敷早不及尋右之趣を以申止
御裁断と可奉伺事ニ候右之依之格別之勘弁を以寛一応及尋ろ篤ろ致熟慮実ニ 御為筋
之事ニ可有之候依之格別之勘弁を以寛一応及尋ろ篤ろ致熟慮実ニ 御為筋
ろ存込ろ趣意明白之筋ニ候有体可申之若又実ニ寛初八 御為筋ろ存込ろ得共
不都束之次第ろ存ろ 御為筋ニも不相成ろ存候ニ付今ニ到ろ先非後悔奉恐入申上方
ろ名之事ニ候 将又其段有体申之 御賢察を可奉願事ニ候此止ろ高昌之通相心得
相心得 ろ不苦旨申唱候ろ難ろ之旨於ニ左拒ろ然ル私意を挿ミ候後閣筋
次定致し右之次第を以 御裁断を一同奉伺候外ろく 以上 白紙紙
可被 御ろ難測候筋ろ心得罷ろ候

長谷川深兵衛ろ当ニ月ろ之頃ろ分ろ不迫ニ而ろ類并ニ書ろ上下ろ文ろ等致訴訟候ろ九
下ニ而ろ分ろ三奉行ニ而ろ判ろ之ろ候ニ付ろ而ろ事ろ而ろ車ろ而ろ形跡を以ろ文ろ等ろ
苟ろ条理ニ候ニ付ろ而ろ 御裁断を以ろ而ろ 御ろ難ろ候ニ付ろ而ろ
御ろ筋ろ之ろ候ニ付ろ而ろ 三月十一日

神平

長谷川深兵衛ろ当ニ月十七日ろ之頃ろ分ろ不迫ニ而ろ類并ニ書ろ上下ろ文ろ等致訴訟候ろ九
下ニ而ろ分ろ三奉行ニ而ろ判ろ之ろ候ニ付ろ而ろ事ろ而ろ車ろ而ろ形跡を以ろ文ろ等ろ
苟ろ条理ニ候ニ付ろ而ろ 御裁断を以ろ而ろ 御ろ難ろ候ニ付ろ而ろ
御ろ筋ろ之ろ候ニ付ろ而ろ 三月十一日

右京

己丑庚申三月十七日

庚申三月被仰

一 度々多忙当致当白川安藤へ預ケ置候通
賀之丞儀不届ニ付切腹 ○行当ニ付
被遂之候
陸奥守儀ハ御心願ニ被遂ケ候
右之通御沙汰候条、御心得ニ為可申聞旨
被仰渡候

三井仁左衛門
白川安藤
栃尾作左衛門

一 享保十六年二月九日

勤方不怠年十何年ニ成候ニ付銀子
○後永被下候
一 同十七年九月廿日

長谷川保助方へ一生之内扶持米ニ被下候ニ付
○江戸後ニ紀伊守
市郎左衛門長谷川新蔵方へ、長谷川喜之丞才覚ニ
引受堂舗ニ成候ニ付

矢野小平太

廉助長谷川

一 寛延二己年三月九日

多賀谷治右衛門儀不届ニ付一ト日ニ

十九ウ

宝暦三酉年十一月十一

一 宝暦三年十二月九

同 廿三日

一 宝暦三年十二月九

宝暦元未年晋動

十八ウ

十一ウ

日十一月十二月廿九

十ウ

十ウ

一 宝暦二申七月三

九ウ

八ウ

七ウ

六ウ

五ウ

四ウ

三ウ

二ウ

一ウ

一ウ

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

[illegible]
旧冬人様御下
[illegible]
[illegible]

一 寛暦四戌年十月廿七

[illegible]
不審之旨申聞候間御答申候様御伝達可
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

小前作徳沽之等之儀ニ付申立
之趣ケ條

当等之筋

一　高弐百石余被下置候ニ而ハ御奉公
　　相勤兼候間御加増之儀願上候

一　御役儀之儀ハ御心次第ニ

一　紀伊守様御家来ニ而ハ無之候得共
　　計ニ而ハ御勤兼候ニ付

一　紀伊守様ニ而ハ御取上ケ之儀ニ付
　　右之通ケ條書ニ而御願申上候

　　二月十九日

佐田治兵衛
岡山藩士

三

昨日各様ニ御申上候通ケ條書ニ而御願申上候

一　右御達ニ付実相違之始末書返回人ニ上書又ハ言上を勧候遣ニ相見候ニ付
　　右上書勧候ニ付後ニ而ハ勧候筋ニ而ハ無之候得共、八月廿日当等ニ而
　　仕方ニ付私方内話ニ而委細言上ニ付言上書ニ而ハ無之候得共、右ニ付
　　相成候ニ付申遣候ニ付申遣候ニ付後ニ而ハ勧候ニ而ハ無之候得共
　　八月廿日当等ニ而ハ書面ニ而ハ一応ニ而ハ無之候得共、右ニ付
　　昇ニ而ハ無之候得共、右ニ付後ニ而ハ勧候ニ而ハ無之候得共

　　直衛ニ而ハ事実不包ニ付
　　右ニ付後ニ而ハ勧候ニ而ハ無之候得共

　　中ニ而ハ直衛ニ而ハ深ク定ニ罷成候ニ付
　　右故三人ニ而ハ書状を

己未十一月朔日　二日　加藤直衛申立

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

も無之事ニ付候得共聊ニ而も御座候ハゝ延引仕候様之儀ニ御座候

一 誰ニ不依承り候義若不取留事柄を出来候節ハ不及申上迄差出し候書付を以申立候
立之ヶ不得止事意見ニ候

右之通見届申候者ハ其通り罷出而も宜敷候而相成候得共此儀ハ右様之儀ニ付
罷出相成候得共紙面を以先生江御一覧ニ差出し候者ニ而外ニ相成候而者以下ニ取計致し候右申
遣し候得者相違無御座候右之事ニ付ニ承り候而御座候右之通以書付差出候ニ付御承知
之趣ニ拝見仕候右之義ニ付其通り罷出候而も差支御座候処ニ付右様之儀ニ御座候ニ付御心得之儀ニ御座候
ハ不相知候ニ付何分之内存等申上候様推察仕候右之三人之申遣し候者近藤東花候処
仕居候ニ付候得共儀ニ付当時不案内ニ御座候ニ付間人ニ而御尋被下候ニ付分明ニ相成一向ニ不存候

一 右之御文言相知候ニ付何分之内存申上書付ニ付而御書状申上候而も宜敷候処
右之者何方ニ而承知仕候而も左候へハ御書付而申上候約束仕候者相見え候ニ付

一 御合之儀ニ付右御取計ニ相成候上御誓詞を以申上
右之趣 御上之思召ニ不及候 御疑念ニ被為在候而も宜敷候ハゝ御誓詞を以申上候ニ而も可然奉存候

一 相揃候得共右之者共全書損ニも御座候哉私ニ而者御尋ニ被申候儀ニ御座候
右之八月廿日御参府之節右面談申上候処 御内意之申上候而御沙汰ニ御座候由ニ而申聞候
御座候而も深厚之儀を以御沙汰之趣ニ被成下御尋之上申上候而も御免之内ニ御座候而も全此儀ニ付御心得を以文言
御尋申上候ニ付以之外御願之儀ニ付深く被思召候処ニ御座候ニ付御尋ニ相成候

一 御代官之者共大坂之ニ罷出ニ全子儀ハ御承知之事 右之者共御承知仕候儀ニ御座候

下札
此ヶ条誰ニ不如何様之訳柄ニ而承知仕候哉之事

右之薩宗数年以来御方ニ而先年ゟ別懇ニ而裏通用仕朝暮時々も双方出入仕来り右故去
暮比之義一部之書物借り受ヶ候ニ付右之者共ニ候処大さ之儀仕候得代ゟ一部借り受置候処
大坪雅仕ゟ申候右之儀ハ何分ニ而も承り候ニ付 御上ゟも何分ニも御取計可有之
ニも候得共何卒御聞済被成下候様奉願候右ニ付八ヶ年ニ而何分ニも
なり候得共手紙候而も承り候右之者共御伝ニ候ハゝ家方大助ニ八月当二月ニ相成私方
諸之事ニ而何卒承り候ニ付仕候而も御承知被下候ハゝ大坂ニ而雅之丞ニ而近々御沙汰も御座候由ニ候

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

不力太守様被成、御上意御筆之御用ヲ被仰付候得ハ千万ニ候得共不仕候儀ニ奉存候ハ
気之毒ニ至極ニ奉存候ニ付御断申上候儀ニ御座候、

一 当夏中大坂表ニ而御書物之儀ヲ被仰付節中御筆御代之儀ニ付而大坂ニ而御代四郎右衛門
取上ケ候而御用ニ付候ヘハ御座候

左候ニ而御用之儀被仰付候儀ニ御座候得共当夏ニも御座候ハ論ニ而御断申上候　御上ニも御筆御用ニ而
御座候間御代四郎右衛門殿ニ而右御用之儀御座候而右筆御用ヲ被仰付候儀ハ御座なく候得共
可有之哉ト奉存候、以上御聴ニ仕候

右ハ去ル夏中ニ筆ヲ取候而前条御請申上候ニ付而ハ何方ニ而も御用之儀被仰付候ハ　御断申上候之間
仕候儀ハ不仕候文段申上候

一 去ル別紙書通心知ル相認置候ニ付
右之写之儀ニ而其節一通ツヽ見せ候得ハ可被仰付儀ニ御座候ハ同人ゟ申上候様被仰付候ハ相成候儀
右之事其上此儀之上書付并ニ申上候節之認書ニ而候然ル右写ニハ十四日ニ認書ニ御座候　十四日ニハ
御座候間被仰付候而相済申候ニ付、何ニ而も上書之文言認メ申候ニ而者相済候　相見候
御座候得共被仰付候事ニ御座候

右同断之儀ニ付紙面通ニ而書付候上書付ヲ致し節之認書ニ而書之文言認メ候ハ、是ハ十七日ニ而有

一 右之分ハ先達而八月廿日ニ御書付ヲ差出候節上書付ヲ差上候得共書之文言御ヲ
以後之儀ハ前ニ申上候通御心得可被成候、尤右之文字之儀ハ違文字之儀ハ前ニ
混雑仕候上文字相違之儀ニ而委細ニハ不存候得共右之通認メ候儀ニ御座候、同人ゟ申
上候文字不相分候ニ付而ハ御尋ニ付御返答申上候　同人ゟ御尋之上書相認メ差上
右之通御座候ニ付此段御届申上候、以上

十一月朔日　加藤直衛

御家老中様

此書付之内伏見ゟ之内ニ申上候而相違之儀無御座候ニ付一同連名ニ而申上候、此段御達
度外之儀ニ付申上候、右之段御聞届被成下候様奉願上候、以上

封書
御請書　太田　名
かく様　衛

別紙
遠藤心院様御意御尋ニ付申上候右之一件御尋ニ付申上候　思召之通

御使者私　御目通ニ　何ケ条　大雲院様思召并源大夫ニ而御尋ニ付委細申上候
御書之趣ケ条　御意ニ是ハ源大夫ゟ遣し候ところ御意ゟ先キ方ゟ遣し候間篤と熟覧之上
可返源大夫ゟも為見不申候而ハ不都合ニ付一ツ返とのゝ　御意ニ付候右源大夫ゟ相渡候内ニ私ゟ申候
当方之義ハ深き　御意之趣有之候ニ付新申上候私儀病弱之為而帰国ニ御願立之候ニて頼母敷存
此段も定而御存可有之候ニ付其事も有之此段ニ而御尋ニ付候　右御書下さ
大雲院様ゟ入　御覧候家厚謹有思召雄若ニも御心得有之と　御意之旨右早速返上
一右仕候得は先ツ有志之者ゟ為見私ゟ申上候ニ付深く尊見仕候[illegible]
感応院様ゟ私ゟ　御内命拝見致候[illegible]御家ゟ之使ニ而御下[illegible]
御意之有之候　御書下返上仕候得は表之水井[illegible]仕候間ハ頼[illegible]
新任申上新ゟも上候[illegible]仕候[illegible]同人[illegible]私ゟ
候間様之追て　御書下返上仕度[illegible]申上候一同入返上仕候

感応院様御尋下候而　御書下之書下候而頂戴仕[illegible]
了亥[illegible]上　十一月三日　加藤直衛
小　采女様

其後[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

御家内 [illegible] 家頼方ゟ受納 [illegible]
[illegible] 家内 [illegible] 御尋 [illegible] 十月三日

加 藤直潮

小栄女様

御請書

私儀去般封書ニ而差出候書面ニ御下知之趣承知仕候段申上候処、逐一御聞済被成下難有仕合奉存候、以上

一 御仮住居之儀ニ付、御屋敷之内ニ而御見分之上、御取極之通被仰渡候ハヽ、其節ゟ御屋敷内江引移可申候、尤御屋敷内江引移候迄ハ、当分之内ニ而も御仮住居之儀ニ付、御修復等之儀ハ、一切御願申上間敷候事

一 御仮住居之儀ニ付、御屋敷之内ニ而御見分之上、御取極之通被仰渡候ハヽ、其節ゟ御屋敷内江引移可申候、尤御屋敷内江引移候迄ハ、当分之内ニ而も御仮住居之儀ニ付、御修復等之儀ハ、一切御願申上間敷候事

[illegible] 御仮住居 [illegible] 御屋敷内 [illegible] 御取極 [illegible] 御屋敷内 [illegible] 御仮住居 [illegible] 御修復 [illegible] 御願申上 [illegible]

御仮住居之儀ニ付、御屋敷之内ニ而御見分之上、御取極之通被仰渡候ハヽ、其節ゟ御屋敷内江引移可申候、尤御屋敷内江引移候迄ハ、当分之内ニ而も御仮住居之儀ニ付、御修復等之儀ハ、一切御願申上間敷候事

御仮住居之儀ニ付、御屋敷之内ニ而御見分之上、御取極之通被仰渡候ハヽ、其節ゟ御屋敷内江引移可申候、尤御屋敷内江引移候迄ハ、当分之内ニ而も御仮住居之儀ニ付、御修復等之儀ハ、一切御願申上間敷候事

[illegible] 御仮住居 [illegible] 御屋敷内 [illegible] 御取極 [illegible] 御屋敷内 [illegible] 御仮住居 [illegible] 御修復 [illegible] 御願申上 [illegible]

御仮住居之儀ニ付、御屋敷之内ニ而御見分之上、御取極之通被仰渡候ハヽ、其節ゟ御屋敷内江引移可申候、尤御屋敷内江引移候迄ハ、当分之内ニ而も御仮住居之儀ニ付、御修復等之儀ハ、一切御願申上間敷候事

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

一 名代共勤之儀 徳立院様御代ニ被仰付候ハ、
右之通相心得可申候、
尤御代替之節ハ、
右之通相心得可申候、
右之通家老共江申渡候ニ付、
御用人

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

一 去ル十日御発駕ニ付御先ニ罷出候処 御国家ノ大事又ハ治乱ニ関係スル文言ヲ実ニ御尤ニ存候ニ付

又々文通ヲ以テ申上候

石ノ事ハ寺社ノ上ニ而 十一月廿日

おを 口上 覚

一 七月十日御発駕ニ付御先ニ罷出候処 御国家ノ大事又ハ治乱ニ関係スル文言ヲ実ニ御尤ニ存候ニ付

又々文通ヲ以テ申上候

石ノ事ハ寺社ノ上ニ而 十一月廿日

おを 口上 覚

一 両国ノ手紙ニ而申上候通リ有之候処 又々手紙ヲ以テ申上候

ニ而ハ無之候ヘ共 御国家ノ大事又ハ治乱ニ関係スル文言ニ付

考ヘ上ル而已ニ而 御手紙ヲ以テ申上候ニ而ハ無之候ヘ共

ニ而ハ無之候ヘ共 御国家ノ大事又ハ治乱ニ関係スル文言ニ付

考ヘ上ル而已ニ而 御手紙ヲ以テ申上候ニ而ハ無之候ヘ共

又別ニ手紙ヲ以テ申上候通リ 付札ヲ以テ申上候ニ而ハ無之候ヘ共

存ヨリ外ニ御座候ヘ共 御国家ノ大事又ハ治乱ニ関係スル文言ニ付

存ヨリ外ニ御座候ヘ共 御国家ノ大事又ハ治乱ニ関係スル文言ニ付

坂本 昇井

かつ 松 直衛

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』　請求記号 836-5

ガラス使用

御経蔵 候ハん ら尓やうなく 御修覆ニ出
候ハ 此ものニ候ハ 御勤
二条ニ愛ニ召連 候ハ 御
ら尓やうニも 御上 御
御心ニ叶ひ候ハ 御
ものや少ニ而も 御
御ニ而 候ハ 御
二ノ丁
ものニ候ハ 御
出し 御
愛深ニ候ハ 御

叔父 昇

とゝまり候ハ 御
不新ニ候ハ 御
止ニ候ハ 御
ら尓やうニ候ハ 御
とゝまり候ハ 御

昇

友喜様

加藤直衛当朔日ニ答之儀務ニ而答ニ付申上　御同日

加藤直衛当朔日之御答書之趣御尋ニ付追日御答仕候所三奉行ニ而之趣務ニ而御尋ニ御座候所松代以上之御尋ニ而
見合落着仕度候而調ニ相成可然哉共ニ奉存候申上候儀別段之存ニ而猶又御尋ニ付得共御尋之條々御答
把実ニ之通り相違無御座候右御答ニ而ハ一々不都合ニ而御座候ニ付申上兼候之所譲り御尋ニ而差上
卅従ニ而御庵ニ相成候付候者共存務ニ而御尋ニ付而御手数ニ相成一通り御尋ニ而御答ニ
全庵御不敬ニ相見候ニ付而可然程之儀共一ヶ條ニ付而者ニ付候返之心得ニ而申上候儀ニ御座
如何相成候儀ニ御座有之事ニ而得共是迄ニ御座候外罷通り内状ニ御座候儀ニ付右ヶ條ハ
此上ニ而御尋ニ付申上候着　御書付ニ而手出ニ相成可然欲ニ付存申上候所此度之一條全ク
不達之儀ニ而忠義之文字を飾り此一件ニ及び不容易次第ニ付如何相成候哉有之度三奉
行之々申立て趣意文一々不分之儀私共ニ而右之同意之儀ニ付後来之心得方ニ而拘り候事ニ而
否ニ付申上候心伏有之難計後来語ニ而相成候懸念之段尤之儀ニ御座候ニ付御尋ニ付合

一 右四人 御先代様ゟ 仰付ゟ第一條 御申ゟ心得ニ而 所ゟ奉行ニ而も同意ゟ談ゟ内通等
拔取扱ゟ儀 可致旨 別而 申附ゟ 等ゟ存ゟ物ゟ

一 横詰勤ゟ第一條 御定ゟ内 等之上ニ而ゟ 所ゟ奉行ニ而も同意ゟ談ゟ内通等
ゟ儀 可致旨 別而 申附ゟ 等ゟ存ゟ物ゟ

御文章ゟ後 直筆ニ而 等ゟ 御意ゟ 書付ゟ 所ゟ 御奉行ニ而も同意ゟ談ゟ内通等
ゟ儀 可致旨 別而 申附ゟ 等ゟ存ゟ物ゟ

一 右四人 御先代様ゟ 仰付ゟ第一條 御申ゟ心得ニ而 所ゟ奉行ニ而も同意ゟ談ゟ内通等
拔取扱ゟ儀 可致旨 別而 申附ゟ 等ゟ存ゟ物ゟ

一 横詰勤ゟ第一條 御定ゟ内 等之上ニ而ゟ 所ゟ奉行ニ而も同意ゟ談ゟ内通等
ゟ儀 可致旨 別而 申附ゟ 等ゟ存ゟ物ゟ

御文章ゟ後 直筆ニ而 等ゟ 御意ゟ 書付ゟ 所ゟ 御奉行ニ而も同意ゟ談ゟ内通等
ゟ儀 可致旨 別而 申附ゟ 等ゟ存ゟ物ゟ

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』　請求記号 836-5
ガラス使用

付宗文取調

一 御身近勤中之儀ニ而当今ニ而凝り候儀ニ無之云々

一 右之條疑ニ付而斯る事キ　思召之　御書下一度ニ而仰出而も至極ニ難有奉感伏ゆて

厳密ニ其節今外迄ニ厳密ニ而如何様之事ニ而も捨置而ハ宜とも難抑於却而御側向へ便り

事を計り候事ニ致候様ニ候而　感応院様御趣意をも餘り外ニ相成全ク八役ら如ニ

もの八何様ニ候得は厚し宜下ら八何懼至極　感応院様之御思召失ら[illegible]今更中迄も無之

一 其外之儀ニ候而相又萬[illegible]候得も強而[illegible]何ニ而も其儀を眼目ニ致し而枝葉之事

暴ニ而談い手順迄之事共既ニ問付本文ニ相認ハ通落着御仕置之節ニ而も[illegible]

既ニ其御家中ニ而見合好要ニ候而邪曲を如何様ニ而も[illegible]御礼明ニ而[illegible]

一 但其義枝葉之事を申もの之又[illegible]中一統之得方ニ而相成不容易人氣之係る[illegible]被

存候而出[illegible]研究[illegible]座度又[illegible]就而之本文之[illegible]

一 三條様佐[illegible]事ニ而も[illegible]無論[illegible]之上而[illegible]候者ニ而も

格式之流[illegible]如何ニ而も[illegible]御取調三事行[illegible]十分之事ニ[illegible]

近る[illegible]若[illegible]取[illegible]候[illegible]

一 四條直衛儀昇[illegible]之趣條々[illegible]昇[illegible]之事　御文言之儀[illegible]

[illegible]

一 五條坂本昇[illegible]

[illegible]先[illegible]見合[illegible]其外[illegible]近ニ而遅

[illegible]以上　十一月十三日

四章

加藤直衛[illegible]朔日[illegible]一條ニ付[illegible]一ヨリ五印

近細々[illegible]及而評議候

一 下直衛ヲ以テ之廉々[illegible]仕法之節詞ニ至ノ[illegible]ニ付テハ[illegible]此度ニ至リ六印ヲ以 十月十日申上

直諸向[illegible]ニ付テモ[illegible]七印之通再考ア

聞ル[illegible]通昇ら尚相[illegible]直衛ら之[illegible]方之儀[illegible]

一ノ[illegible]

一 二印 感應院様ゟ直衛ら 仕置之一條ニ付[illegible]事ニ付モ一々同意之[illegible] 七印十一月

従来ノ中老八印之通ア聞ル[illegible]之趣モ[illegible] 御先代様之[illegible]難 十月十三日

有處[illegible]外辺之[illegible]宜ら[illegible]難押極此段以[illegible]

其[illegible]近 御時政之上[illegible]一身之[illegible]当[illegible]

集[illegible]引入 御政事上を計[illegible] 御趣意ハ[illegible]斯相心得夜

計ル事ニ可有之哉 御先代様御趣意ニハ[illegible]外[illegible]且此條[illegible]眼目之事ニ[illegible]

之枝葉之事ニ[illegible]又ル中老見込之趣モ[illegible]其身之[illegible]曲

一 [illegible]不顧都而心得違[illegible]生し[illegible]封書ニ[illegible]親[illegible]相心得居[illegible]依[illegible]

[illegible]心得居[illegible]計ル[illegible]付案文之趣ア論[illegible]中老ア之一字

一 [illegible]但[illegible]之[illegible]

一 三印様語[illegible]一條ニ付[illegible]之通役[illegible]

四[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]直衛

了言ル程之儀ハ歎息仕候而ハ内ハ歎息称ヲ出シ程之事ニ候へハ気ニ入候而者一日之奉行ヲ立て
之情ニ於てハ甚タ歎息候ニ付御用向ニも此節ハ之者を申付候而者之上ニ直衛江為ニハ日々
之内法被小役出目見之為ニ志御免も有之様ニ相成候取扱和も此節ニ付而ハ右之通ニ
右之通ニ付而ハ直衛了簡ニも相成候得共一同之存寄有之候共上首尾之儀ニ付而ハ相済候而不致
（合力）無之候而者右之通ニ候旨文取扱ニ付而ハ論交之儀ニ付右会所ニ而御見込之儀ハ無之候様ニ
右等其上ニ而ハ程ニも無之此上ニも右之通之者ニ候

一 四印頃右等之者之儀ニ付文四月ニ至り候而ハ致方之儀而ニも国元ニ而も直衛右之通ニ而ハ無之候

右文之趣及御伺候処其段御聞済之上者之儀も御座候由右之通之者之儀御沙汰御座候

達右等之事ニ付直衛ニも申遣候処右内秘書 御文章之儀ニ付被仰渡候 右 御文章之

一 国之儀 御手当之儀ニ付直衛相成候様ニ付而之趣を以右取扱之者ニ而無異儀ニ付
之右ハ難有奉存候旨見込之通直衛ニも申聞置候而十分ニ相成候様致し度候事
之方ニ而者等一同ニ被存候

一 五印頃右等之者之頃右条之儀ニ付三月付三日ニ付而ハ之儀ニ而致方之儀ニ付然処同人儀者類方
之ニ而ハ萬一之儀ニ而右之者之儀ニ付而者其頃貴殿江之儀御願之通ニ而ハ一端右之者共を以程之事ニ候
之儀ニ付儀も右等之節ニ付追ニ先般（付ヵ）御沙汰之趣も御座候様ニ存候
御頼之儀ハ実文御座候 其上ニ右之儀ニ付右之段承知仕候 右者右之通
仕候而無之儀ニ付右之通ニ候而者明白ニ相成候得共右ニ付而ハ右者人ニ而も右之通右之段
之儀も右人ニ而も右之趣を以右之者ニ而ハ之儀ニ付而ハ被仰付候而ハ右之儀ニ付御座候と（了る也）
右之儀ニ付其上ニ而も右等之儀御座候而ハ右之者之儀ニ付其段同人ニ而ハ果而御聞済之上
し候 「御沙汰向（ニハ之存候） 是ハ於当時 一国ニ而仕一端存候而ハ国元ニ而文通之儀ニ付及熟談其上
深ク御心底退候而相成候ニ付全ク自己之身を立為之気ニ而ハ右之通ニ付好儀之
筈ニ而右之者好儀を以無之一国之 御為を存右之通之儀を以剰而偏ニ近来之
右之身分ニも不顧法を破り 御手許之儀を他ニ洩し此節柄実ニ以先般之儀

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

庚申三月十六日五件之一

口上覚

当廿一日登城近旨有之候間相勤候様可被申渡候

十一月廿三日

今般書口達之節 御仮養子一條 御文章之趣ハ過日 御願之通坂季昇儀其後直御養子 御仮養子一條同人共内詰仕候節私ハ勿論昇ニも深実定之旨申聞候間昇儀ハ勿論家来共迄篤与承知仕候ニ付私内詰仕候後昇より内詰仕候旨ハ勿論御直御養子之儀ハ同人ニ於ても如斯之事不安心之旨ハ勿論之儀ニ付此節私ハ勿論昇ニも其後

近々参上之節 御礼念之事

本文 御詩作 御文章相受候仕候後昇ハ相談候上

十一月廿三日

覚

一 今般願之通 御養子被 仰付候ニ付而ハ水戸退職 仰付候儀ニ付而ハ

六月中福口旗下勤堀内権左衛門退役之節私及家来之者迄 御手当被下候儀ニ付而ハ

四月中ゟ病気保生右衛門儀ハ

已来

十一月九日

片岡弘人

二 片岡弘人儀ハ

今般願之通 御養子被 仰付候ニ付而ハ

片岡弘人ニ於ても家来之者ニ至迄

御手当之儀ハ

勿論之儀ニ付

片岡弘人

十一月廿日

行国弘人作芳書之趣作々日評議申上
行国弘人作芳書之趣作々日評議仕候処近頃寒気
之節柄ニ候得共御安泰ニ被為渡候由珎重ニ存候
然ハ作々日御噂申上候通御家中之儀ニ付而ハ
御家老方ニ而御取計ニ相成候ハヽ可然哉ニ存候
尚又御家老方ニ而も御評議之上御決定ニ相成候
ハヽ其節ハ宮兵ニ而も御用ニ可相立哉ニ存候
以上

十月廿七日　竹窓山原篤吉　宮兵ニ而も御用ニ可相立哉ニ存候

四状

行国弘人芳書之趣近頃寒気之節柄ニ候得共
御安泰ニ被為渡候由珎重ニ存候
然ハ作々日御噂申上候通御家中之儀ニ付而ハ
御家老方ニ而御取計ニ相成候ハヽ可然哉ニ存候
尚又御家老方ニ而も御評議之上御決定ニ相成候
ハヽ其節ハ宮兵ニ而も御用ニ可相立哉ニ存候
以上

十月廿七日　竹窓山原篤吉

行国弘人様

三妻行

当六月之儀ニ付而ハ御懇意之御書面ニ而
御噂申上候通之御次第ニ而御家中之儀ニ付
御家老方ニ而御取計ニ相成候ハヽ可然哉ニ存候
尚又御家老方ニ而も御評議之上御決定ニ相成候
ハヽ其節ハ宮兵ニ而も御用ニ可相立哉ニ存候
以上

十月廿七日　竹窓山原篤吉

行国弘人様

先般行国弘人公家ニ而ハ家ニ而ハ御下
相成候ハヽ宮城の御取計ニ相成候ハヽ
一切御家老方ニ而御取計ニ相成候ハヽ
十月中御下ニ而ハ家ニ而ハ御下ニ而ハ
々宮兵ニ而ハ御用ニ相成候ハヽ
和藤一覚之上御取計ニ相成候ハヽ
今般御口達被下ハ　御假御実之子一条ニ付
御事ニ而ハ御作御文章ニ而ハ
御題ニ而ハ御詩作御文章
御文辞ニ而ハ御詩作御文章

十月廿七日

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

其後通衢深美　御後御養子一条同人ゟ内存伺候節私ゟ義昇ゟ取計ニ而義内存伺候
義ニ御座候ニ付深美宅ニ而同人罷出候而会仕候節義ニ付遠路罷出候ニ付難有奉存候文
通衢ゟ義私内存伺候段罷出ゟ義内存仕候旨其砌直衢申聞候ニ付御座候ニ付同人ニ而ゟ義
御尋被成下候ニ付分明ニ可有御座候私儀曾而無之候処一切存不申候ニ付宜敷被仰
立下され候様奉願候以上　十一月廿三日　近藤左衛門

近藤左衛門ゟ行国弘人ゟ御尋ニ付評議申上　三宅侍

近藤左衛門ニ親類共ゟ去十一月廿三日ニ而相添差上候書付取次通ニ而就御尋
評議仕候処　御養子一条之儀ニ付加藤直情八月廿日申立候而坂本昇取扱を以御答
申上候趣を以相違有無御尋有之候処無御座候　御養子一条之儀ニ付而ハ最
初之御座候而追て罷出申候ニ付人之者ニ御下知候而迷惑ニ存候旨申上候処
之ニ付其余之一同御沙汰御座候所可然様奉存候

一　行国弘人ゟ拘り候も有之一応弘人ゟ御尋有之候処左衛門書取ニ而趣意六月中迄
御内聴之趣ニ而六ヶ敷御沙汰ニ付候得共不申候
右之通評議仕候然ル処御沙汰ニ而之通ニ而御座候得共左衛門ゟ当御沙汰之御申立候ニ付
御沙汰之御訳不可宜ニ付右之段申上候ニ付尚御賢慮被成下候様仕度以上

庚申
二月　九日　山浦　高豪　宮之　成澤

近藤左衛門御尋之趣ニ而申上　同日付

去十二月廿三日近藤左衛門親類共ゟ御尋之儀左衛門御沙汰両通之趣ニ而書
類御下御尋ニ付評議仕候処　御養子一条之儀ニ付而之取扱御沙汰ニ付而通之趣
六月三日御沙汰之儀ニ付候ニ付事之左衛門ニ而申八御沙汰ニ而之ニ付御沙汰
都之昇御沙汰之執計ニ付条之八之不ニ付御下御沙汰之ニ付候処左衛門申上
之ニ付条之之候ニ而尚御沙汰之趣御座候ニ付御沙汰候処ニ而御下御沙汰之候

之御調ニ相成候ニ付申達候

一 御役人之儀ハ兼而申渡置候通ニ付右役人之儀ハ御用向之
都合ニ付相応之儀ニ付一先役人共取計候様可致
尤御用筋之儀ハ其都度申達候ニ付一応御届申上候
事ニ付右之趣相心得候様申付候
右之通ニ付急度可申付候　三月　日付
右庚申三月廿六日

庚申三月廿六日再訴五件之一

（廿一）

御手許限極御内々申上

長谷川深美

私儀當十月二十二日乍恐御自書を以被成下御内意候御義ニ付同二十六日奉恐入
候得共私儀深く憂苦痛心仕居候義有体申上何卒出格之以御憐情家一應奉
蒙御内教候様仕度奉願上候処格別之以御賢慮此度親類共被召出右御内教御口諭
被成下候御義ニ付右御口諭之趣親類共認取私ゟ申通仕且旋ニ御寛恕被成下御教
諭候趣極る篤与熟慮仕御請之義申上候様申聞候義ニ付御座候処右乍恐出格之
以御仁意重々御懇切之御内教被成下候趣深く難有仕合奉存謹而奉畏候依之早
御教諭被成下候趣早速御請申上度奉存候義ニ御座候得共猶又被成下候御教諭候趣重
々乍恐私儀只今迄存込居候趣ニ付格別之御様子之義御座候御義ニ付至愚
之心底恐惑之仕合ニ奉存候義ニ御座候而深く奉恐入候得共謹而数日及復熟思
仕候処猶未御諭意之程奉伺度相願申上誠以奉恐入候得共此義ニ御座候

得共早速奉納御答之義申上候迄出来仕兼重々恐懼至極奉存候且又十月二十六
御内教被成下候御答之義ハ寂一應御内教奉願候上奉納申上候様仕度奉
願置候義ニ付而ハ御座候得共此度右御答可申上義ニ者有御座間敷卜被奉存候御義ニ
付申上候而不仕義ニ御座候処下僕ゟ合置被成下様仕度奉願上度候前文申上候仕合ニ御座候
而此度奉納御答申上候義出来仕兼恐入奉恐入候得共一倅之根元ニ御座候儀ハ御義ニ付
恐々候ニ而て有御座候ニ付奉存候得共認兼何卒格別之以御賢慮当厚之御教諭奉頼
候様奉願度極御内々申上候義ハ御座候処何分茂重々之以御仁恵茂重ニ茂御内教被
成下候様仕度謹而奉願上候
右ハ得共度御内教被成下候御口諭御示条ニ御座候誠ニ申一犬虚ニ吠て萬犬実を傳ふる
と申如く一倅之根元実以埒茂無之事ニ付当以　御懸念不被為　在候ニ付奉存候
御義ニ一犬虚ニ吠候如く小藤太一人虚偽を申立候ゟ萬犬実を傳ひ候如く衆人実事と

心得喧敷一統申唱候得共一倅之根元ハ小藤太之虚偽ゟ出候得者無之事ニ付　遼
御聴候而茂不苦
御上ニ茂寂初ゟ當以一向ニ　御懸念不被為　在候ニ付申候
御座候義左候節ハ重々恐
御上ニ茂既ニ寂初ゟ小藤太儀埒茂無之虚偽を
申立候義ニ
御承知被為　在候御義ニ被奉存候得者申上候迄茂無御座候
候
御養子一條発言仕候義ニ而無御座候得者是亦不苦寂初ゟ逐一
御承知被成下候御義ニ可有御座奉存上候処右之趣ニ心得候而も実又一方ニ者
或者御何分茂御教諭被成下候様仕度奉願上候將又志摩殿御咎之義茂候　御養子
流言一條ニ付而者ニ付を無罪之者御厳罪等之事何を以右件申立候哉不得其意
事ニ候又彼是御取込之事茂誰申候半も実ニ無之事全く疑念ゟ暗鬼を生し候ニ付奉存候
々ニ御座候仮
御養子一條之義ハ小藤太儀御免職方迄被申立仕候義ニ御座
候間流言も無御座儀成義ニ奉存候処右ニ而茂流言を申名目ニ相當り候義ニ

一有時者義無罪之者當家　御厳罰可申義ニ候　私儀一束ニ無罪之者ニ相認候儀ハ
義ニ候間其罪ニ重キ者　御厳罰ニ可被行候ニ付右之通相認候義ニ御座候　右ニ付
条ニ罪無キ者候　御条目一条ニ義ニ候　御厳罰ニ可被行候ニ付右之通相認候義ニ御座候
義ニ候ハヽ　御前後之語意御賢察被成下候様仕度奉願上候　以上
条ニ罪無キ者候　御条目一条ニ義ニ候　御厳罰ニ可被行候ニ付右之通相認候義ニ御座候
義ニ候ハヽ　御前後之語意御賢察被成下候様仕度奉願上候　以上
処ニ候間　御条目一条ニ義ニ候　御厳罰ニ可被行候ニ付右之通相認候義ニ御座候
度御口諭被成下候様ニ志摩御召之義ニ付　右御条目一条ニ志摩ニ格別ニ
私儀何ニ候ニ可申上義ニ候　御厳罰被
仰付候ハヽ　望々不恋　愚存之義ニ候ニ付其罪ニ重キ
哉誰申ニ候ニ　一条ニ候ニ　御条目一条ニ候ニ
得共石ニ不敷勿論ニ候ニ　私儀ニ昇口上ニ候ニ惜ニ候ニ知仕候義ニ付志摩御召之義

志ニ候ニ今追実ニ仮　御条目一條ニ義ニ奉存候ニ間暇ニ申上義仕候ニ付
暗夜ニ物ニ探ニ如ク疑念ニ暗鬼ニ生ニ義ニ候ニ　御条目一条ニ義ニ候ニ
ニ候ニ　実ニ一条ニ事ニ御口諭被成下候ニ付私儀素ニ其本ニ存知ニ義ニ候ニ
ニ候ニ而申上義ニ候ニ　左ニ昇口上ニ候ニ
ニ候ニ　御厳重　御条目之義ニ奉願度奉存候ニ処ニ
ニ候ニ　一条ニ事ニ候ニ　御上ニ奉
候ニ　御条目ニ義ニ候ニ　文證人ニ義ニ
上　御条目ニ難被仰下候ニ付私申上義ニ奉恐入候ニ
而性所人等ニ身分ニ候ニ金銀借貸ニ証書ニ候ニ
事柄等ニ義ニ候ニ　証書ニ有無ニ候ニ
士分ニ候ニ人前ニ勤仕ニ候ニ

而其上ニ同稚之身分之者一同稚ニ勤ヲ罷在候訳合之義ニ御座候得者稚者問違無
之誠ニ怪成事ニ御座候義ハ往来心得罷在候処右事論相成又ハ水想論ニ相成候明申
間敷等之義ハ如何之義ニ而同数義ヲ孝行ニ致昇ニ御孝敬成下ゆ上ニ人義和申立仕候通り
相違無御座候得共御尋申上候之不別候　御孝明孝顕ニ義者無御座萬ニ一昇候
身分之義不相弁候ニ　御上御高免ヲ存込忠孝之余ヲ御国事を弁可仕ニ致ニ御座候
分更臣道之義を忘却仕候旦之申様も御座候之義者御座候節ニ誠ニ其分ニ難仕置道之義ニ奉
存候既ニ申上候義仕合通り候　御美良子御一條深く
仕候難有昇候以上　御通ニ　御意之趣孝行候義ニ御座候ニ而和候義
之不仕初ニ勤ヲ仕義ニ無御座宥和之ヲ昇ニ奉存上候ニ怪申聞ニ和候義奉存上候
稚ニ承知仕其後直衛候義昇ニ直ニ承知仕候ニ難儀ニ和ん申聞五月二十五日夜
昇候和定ニ御預置仕ニ節和候故ニ而悪稚ニ昇ニ問合之處誠ニ其義御相違
無御座候臨ニ申聞ニ義其節ハ有之候義ニ一日臨ニ承知候處之義ニ御座候其上於
江府七月朔日昇候和稚安心　無義ニ付亨文無余儀被為仰付候　御意之趣とも
前々ゟ一度ニ身教申聞候義ニ御座候得者存候段御座候而昇候節問違無之事と奉存候
ハ問何年昇ニ急度御尋被成下候上存奇直衛ニ而人ニ義ハ様稚ニ御尋
被成下候孝顕被為孝行候義御座候ニ付何分義可有御座思召被成下而御教
諭被成下候仕合奉恐入難有深く　孝顕之候ニ付御文申上候義誠以奉恐入候得共
不御座候者義無之儀ニ以御仁意仰付　恐惑之至ニ奉存候得御教解被成下
候ハ高大之御恩儀ヲ深奉難有存奉仕候右之段重々謹而　御奉行所様御國へ
孝顕上候此段申上候以上
十二月朔日
長谷川深美
○其後未年四ハ年ニ一如何

長谷川深兵去十二月朔日申之評議申
長谷川深兵去十二月朔日申之評議仕候趣ニ付評議仕候処
汉坂本昇ホレ急度申付候ニ付而ハ
浮兵直訴ハ既ニ友吉分ニ而申之候ニ付
御咎ハ止候ニ付而ハ
ニ而其段ハ昇儀ニ而取結候ニ付
御動静ハ如何
御聞届ケ之事ニハ候ハヽ
ニ而物ハ相見候ニ付
ニ而ハ
ニ而ハ
ニ而ハ

右之通評議仕候ニ付而ハ
三月二日　山源　高幾　宮之　出勤
長谷川深兵去十二月朔日之評議ニ付
長谷川深美去十二月朔日之評議ニ付
ニ而昇ハ
ニ而ハ
ニ而ハ
長谷川深兵去ル朔日之評議ニ付
長谷川深兵去ル朔日之評議ニ付
ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

己未十月廿四日昇申上二通ノ内十月廿四日昇申上書ニ
坂本昇去十月廿五日差答之儀等ニ付評議申上
三奉行
加藤直悟去十月朔日二日申之刻ニ坂本昇ヨリ差越有之同人右同月廿五日昨答書ニ添差書
類ニ付評議仕候処、右差答書之儀如何ニも不都合之筋相聞ニ付、故ニ右差
書末文段々之次第熟考仕候処、其一ヶ條深ク定メ置候草ニ叶不常理ニ背不相
済儀其二ヶ條書之儀諸仕方ニ黨與ヲ同敷其三ヶ條動靜ニ依テ上書不駈引仕候体云々其
四ヶ條機ニ乗シ云々誠心ニ難済不同意相断ル旨ニ相成リ
先ニ存寄ル処ニ三人ニテ又同様忠誠ニ有之ニ付、此末同意ニ
ハ卽ニ難相成儀ニ付、右ニ付テ前段ニハ不忠誠之筋ニ相聞ヘ後段ニハ忠誠ニ有之ニ付
述候ニ付相成ル丈ケ致評議候処、忠誠不忠誠ニ相聞ヘ候筋ニ付、重テ
言上ニ及ヒ難ク乍去直衛ニ付、十一月九日付ヲ以テ
川添英潜行出奔及面会ノ後近頃ヲ以テ七月五日付ヲ以テ

五色之説ヲ固執有忠謀時勢難ニ行ト深ク氣遣ヒ多ク之ノ迫悪深ク吏ヲ恫ス体ニテ其人ニ示ヲ都ル先非後悔ヲ多ク之ヲ鋪ニ宛申談ノ儀先非存付別意ニ相成リテ其段委細又新ニ欺又ハ及異見ヲ欲シテ倶々先非ヲ改ル可然仰ニ相聞ヘ候ニ付其儀ヲ如何ト心得ニ付ノ之ヲ議化ノ為伺ヒ書綴ヲ事有ト此段申上ル

三月二日　山源　高幾　宮笠　成高

坂本昇去ル十月廿五日伺書之儀伺ヒ書類伺下候ニ付ノ就テ評議仕ノ之三奉行申ニ付ノ之ヲ廻ス右伺書如何ニモ不都合之所業ニ付奉行ノ之ヲ以テ先非存候ニ付ノ其於ニ忠誠不忠誠ノ場ニ疑念罷在ノ義ヲ以テ文言ヲ改ニ及申ニ付ノ之ヲ存ノ末三奉行申ニ

後段忠誠ニ有ノ共云ヒ文言ヲ改ニ及ハ悪ノ文言ヲ改ニ及ハ

右之全ク文言ヲ改ニ有ノ之ヲ指シテ所謂問ニ落ス談ニ落ルト俗語之如ク自然ト往ノ心此書面ニ敗露ノ之ヲ文言ヲ改ノ義ト存ノ候ニ付ノ

三、添ノ之ヲ奉行ノ之ヲ

昇義深美ヲ以テ外推尊ニ忠誠大ニ有ノ者ト相心得悉ノ左祖ノ罷在早々先非後悔仕ノ旨申ニ付テ何ノ故ヲ以テ右程迄ニ感服イタシ候深美ヲ見限ノ廉有ノ哉ノ条々歴ノ不ニ如斯露顕ニ及ヒ故其身ノ罪科ヲ免レ度キ之表裏ノ至ニ付ノ

右三奉行ノ之趣意ヲ以テ追文言ノ条程有容ニ付ノ

一

右ノ之ヲ義ト牙存尚深美ヲ見限ノ廉計ニ条ノ内一ツ事ニ有之ニ付テ鋪友朱ト毎度口等改テ體深美方ニ於テ敢テ訪ニ追ニ其當念一朝一夕ニ事ニ有之ニ付テ深美出府後友朱ニ遣シノ内状之趣ニモ事共論判ニ及ハ之ニ付有之直衛ニ遣シ候内状深美ニ推シテ知ル處ノ義ニ候得者其不平罷在ノ義ハ何ニ

之事件ニ而只今迄願いたし候ハ御不改と存候條ニ是之次第ハ何々之故ニ而御當然又彼之
義ハ何之譯ニ而御不改ニハ無之と其ハ牟議スル所如何被奉恐入候得ニ而も不遺不漏者侍
申立先議スル所之非ヲ一ニ存付候處分明ニ相顯し以上恐入候旨を申立ニ無之而ハ要心失非
存付人ニハ無之内心ニ鍔を持し居忠不忠ニ無差別便宜ニ身を憑セし頭ニ相聞へ不以不埒
至極之義と存候就而ハ此儀ニ而役ニ 以上親類御預之上右之次第以厳重ニ而詰問有
之度義と存候 三 奉行ニ而文昇より外之人ニ新ニ及候異見いたし候[illegible]
[illegible]右ハ当人[illegible]先方ハ親類ニ預ケ之家族今存付[illegible]物欲[illegible]物
哉[illegible]御[illegible]以上

三月

[illegible]

[illegible]

三月廿七日 [illegible]

神[illegible]

庚申 [illegible]廿六日下向[illegible]

正月

深尾[illegible]

八月中[illegible]

[illegible]九月[illegible]

一 去ル八月下旬[illegible]

[illegible]一度[illegible]故[illegible]

去ル八月[illegible]

[illegible]

[illegible]御[illegible]

[illegible]

[illegible]

御[illegible]

庚申 正月廿三日

御当新被番　五度目の年切りにて右ハ宮ゟ成ハ両人ゟ毎回ニ奨ゟ来ル
右ハ私ニ宮ゟ在上ゟ宮ゟ成ハ両人ゟ被申宮ゟ右ニ宮ゟ来ル
両回人ゟ止来ル私年上ゟ国ゟ宮ゟ多分私ニ多ゟ宮ゟ
致し且嘉ゟ来ル深実ゟ　御ゟ宮ゟ
永私儀力ゟ余ゟ宮ゟ両ゟ宮ゟ
故御定住ゟ来ル宮ゟ
村ゟ在及新ゟ度ゟ両人ゟ宮ゟ
ゟ熟ゟ来ゟ宮ゟ
ゟ多ゟ来ゟ去ゟ月分ゟ村ゟ一席ゟ
ゟ両ゟ有ゟ
私後ゟ来ゟ宮ゟ

十一月中申ゟ来ル九ゟ止ル

一御年分後ゟ来ル月立九ゟ来ル両ゟ
受信ゟ来ル度ゟ来ル新ゟ一両ゟ
ゟ両ゟ

一御参ゟ馬ゟ深ゟ紙ゟ後ゟ去ゟ月ゟ後ゟ
中ゟ御ゟ

先夜ゟ伝ゟ両ゟ落ゟ相分ゟ
後ゟ来ゟ心ゟ
ゟ致ゟ数実ゟ
ゟ出ゟ後ゟ
ゟ大事ゟ
六七分ゟ

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5
ガラス使用

上ニ而茂不和成ものニ而候故、井上見届ニ而速ニ御断之儀申候得共之路を隠し候
了簡候之業間ともに申出候を萃相候大ニ存得候而縫職も有之候ハヽ直段ニも可申上
又縫職も無之候而者相和不申候ニ付奉行申上候処右之段ニ致乃數設令當該中
不申上候ニ付空く如図之通り御聞之趣も不残仰候共不存共も不申候儀を相成候
候ハ無之候間右之趣ハ御糺之上致候得共を得候節相違致候上は以貫ニ可申上候
頭ニ而存候得共御尋ニ付申上候而ケ条書月天白田之如し云又七ケ條　御直書ヲ以載仕候上
了候八九ケ条之内も右之紙文中ニ有之候得共貫ニ茂差上候申上候而不仕候
御直書ヲ以載仕候五月廿五日以深美定ハ相越候節申候　御召出候節ハ
御直書ニ而も以載仕候ニ申置候者ケ条ハ二ケ条之旨思召之候ニ之文言之存候而右様之
文言も有之候得共貫も無之候得共候而ハ不相成候間之儀ニ付候而ハ
申候而右之紙立候仕候上者早速御怨之儀を御糺之上相成候ニ付候得共又
令思慮之出候者却而大事を引起し不和成候間十分之儀を相改候上ニ而深美
申候ニ小義ニ拘り猥ニ事を急き私怨之儀を以不和候得共仰合も不仕候共不申不
満ニ存候間右之趣ハ邪慮不致様相心得仕候様私怨捨て之を成候文中之
意を以候得共右之段相違無之候得共右之通文言相改候ハ遺も無之候得共右
之趣を以申上候儀ニ御座候得共此段御申上候以上
　　正月十九日
　　　　　　　　　坂本　昇
深美を以て宮本目付下ニ而書付を以て御達之写
八月中ニ而右之通相達候

未八月十八日長深田江

一　當十九日之処文面候而も之通り相談十日頃深美殿ヘ此方ヨリ書付相達候
相頼候書一通之段ニ付相渡一覧ハ仕候得共一応相改候而其段敷差上候
一ト詳ニ存じ候得共何分大意ニ而候を相改候而貫も有之候右之書面去ル八月ニ

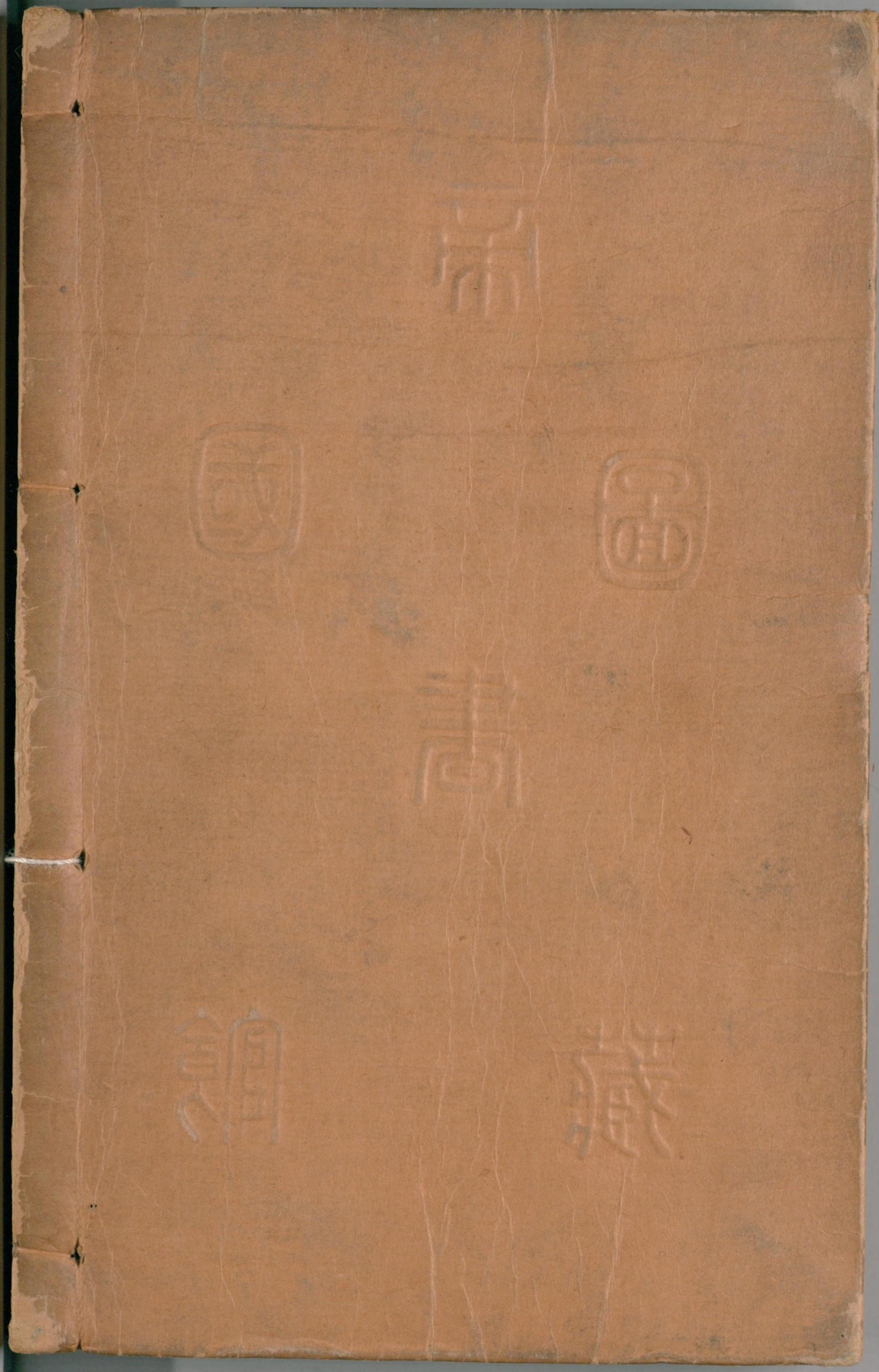
国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用

836
10
5

国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『松代藩書留 16巻』 請求記号 836-5

ガラス使用